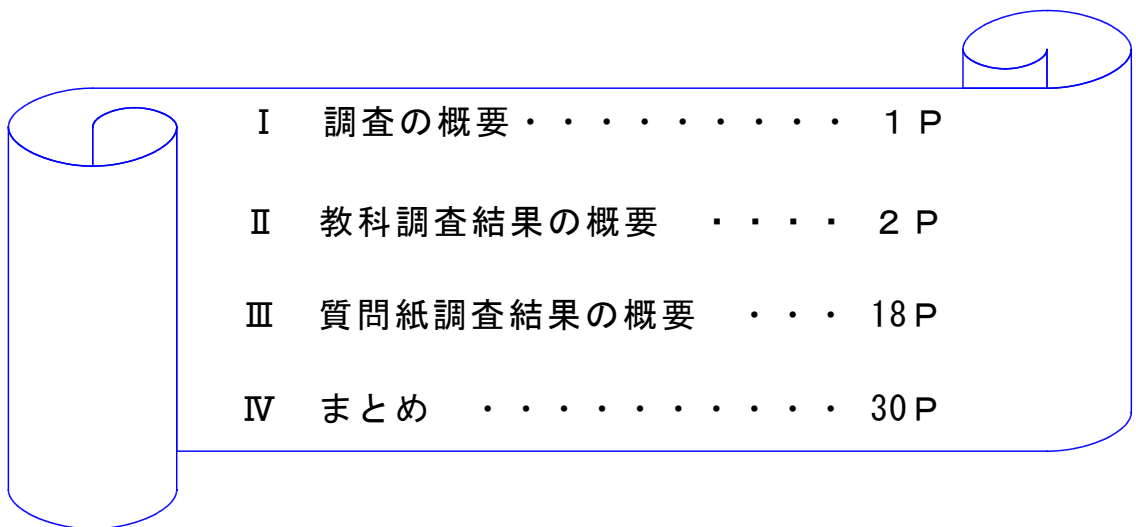


平成26年度
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～



I	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1 P
II	教科調査結果の概要　・・・・・・・・	2 P
III	質問紙調査結果の概要　・・・・	18 P
IV	まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・	30 P

平成26年12月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年，中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 国語A，算数・数学A～主として「知識」に関する問題

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

○実生活において不可欠であり，常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 国語B，算数・数学B～主として「活用」に関する問題

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

○様々な課題解決のための構想を立て，実践し，評価・改善する力など

② 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習習慣，生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

平成26年4月22日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	20,177 校	1,080,663 人	9,742 校	1,018,365 人
北海道(公立)	1,096 校	42,951 人	621 校	41,772 人
留 萌 市	5 校	141 人	3 校	158 人

6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については，児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや，学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては，平均正答率，平均正答数等の数値を示しているが，これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく，総合的に結果を分析・評価する必要がある。また，個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し，児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

II 教科調査結果の概要

1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 平成26年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

校種・教科 平均正答率	小 学 校				中 学 校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
留 萌 市	74.8	57.0	77.6	55.5	80.0	51.5	65.8	58.0
北 海 道	71.8	52.9	75.8	55.2	79.4	49.9	66.0	59.4
全 国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8
北海道との差	+3.0	+4.1	+1.8	+0.3	+0.6	+1.6	-0.2	-1.4
全国との差	+1.9	+1.5	-0.5	-2.7	+0.6	+0.5	-1.6	-1.8

(2) 平均正答率における8年間の全国・北海道との比較(H23は全国統計未実施)

<小学校>

全道・全国との比較	国語 A					国語 B					算数 A					算数 B															
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
相当高い																															
高い																															
やや高い																															
ほぼ同様(上位)																															
全国・全道と同様																															
ほぼ同様(下位)																															
やや低い																															
低い																															
相当低い																															

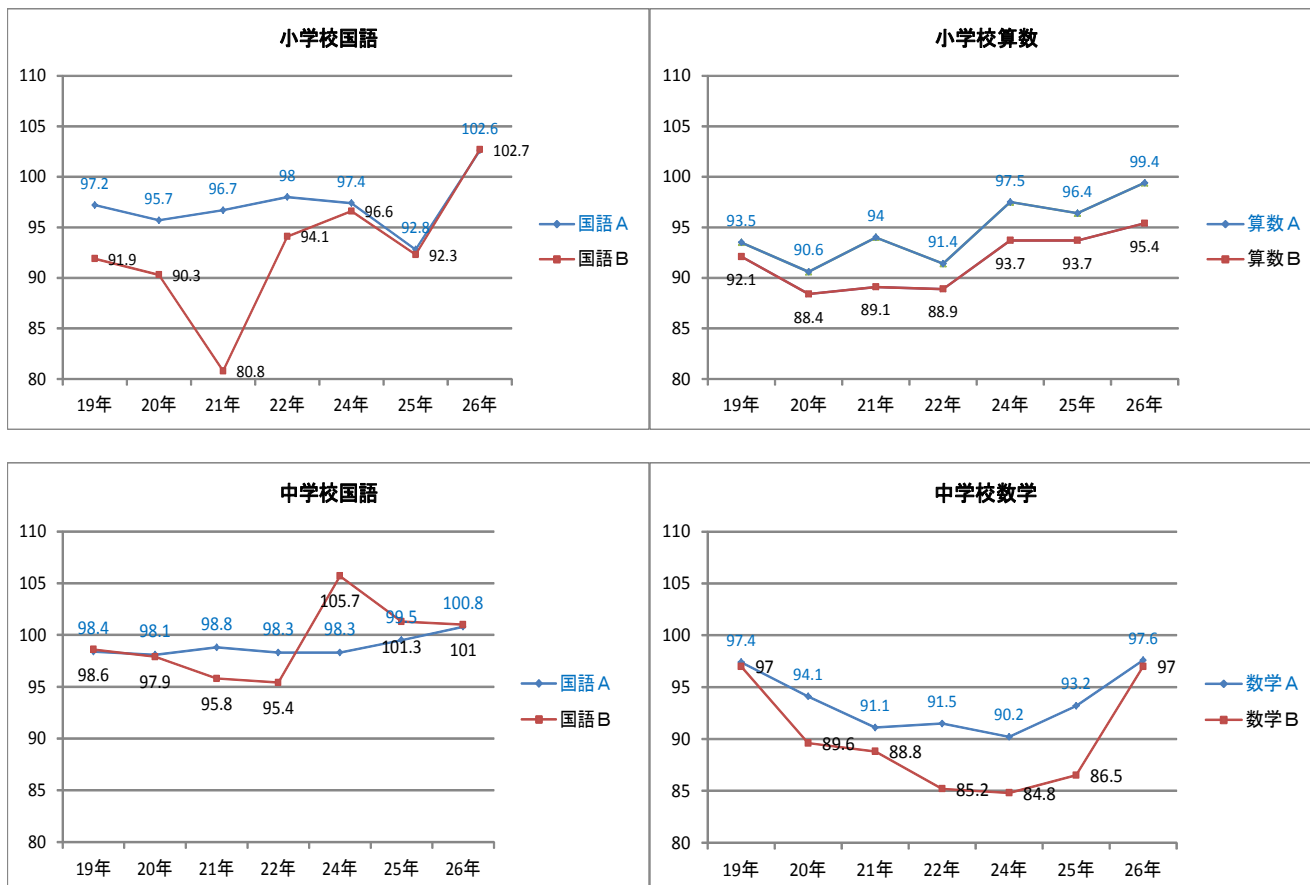
<中学校>

全道・全国との比較	国語 A					国語 B					数学 A					数学 B															
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
相当高い																															
高い																															
やや高い																															
ほぼ同様(上位)																															
全国・全道と同様																															
ほぼ同様(下位)																															
やや低い																															
低い																															
相当低い																															

○～北海道との比較(●は26年度) ☆～全国との比較(★は26年度)

相当高い	-----	7ポイント以上の範囲
高い	-----	5ポイント以上7ポイント未満の範囲内
やや高い	-----	3ポイント以上5ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	----	1ポイント以上3ポイント未満の範囲内
全国・全道と同様	--	±1ポイント未満の範囲
ほぼ同様(下位)	----	-1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
やや低い	-----	-3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
低い	-----	-5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
相当低い	-----	-7ポイント以下の範囲

(3) 全国の平均正答率を100としたときの8年間の推移(H23は全国統計未実施)

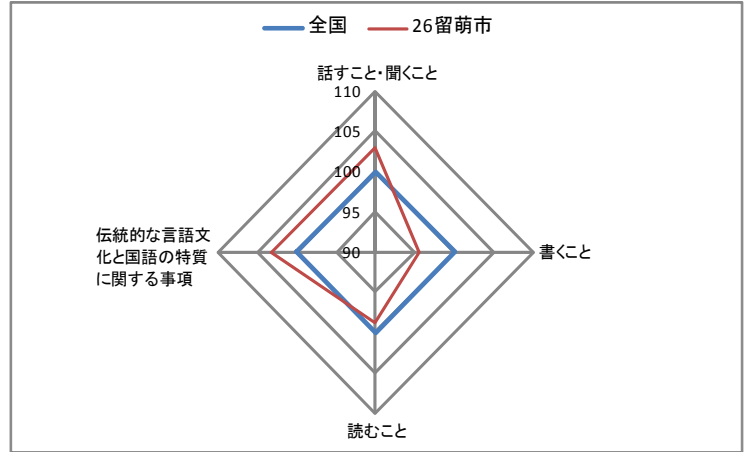


- ・ 小学校では、国語 A、Bともに全国・北海道の平均正答率を上回っている。一方、算数 A、Bについてはともに北海道の平均正答率を上回っているが、依然として、全国の平均正答率を下回っているが、差は縮まっている。
- ・ 中学校では、国語 A、Bともに全国・北海道の平均正答率を上回っている。一方、数学 A、Bについてはともに全国・北海道の平均正答率を下回っているが、全国との差は2ポイント以内である。
- ・ 8年間の推移から、小学校では平成24年度以降、すべての教科において全国の平均正答率との差は縮まる傾向にある。また、中学校では国語 A、Bともに毎年ほぼ全国の平均正答率と変わらず、数学 A、Bについては平成25年度より上昇傾向にある。

2 小学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	11.2問／15問	74.8%
北海道	10.8問／15問	71.8%
全 国	10.9問／15問	72.9%

<領域別の平均正答率の状況～全国100とする>

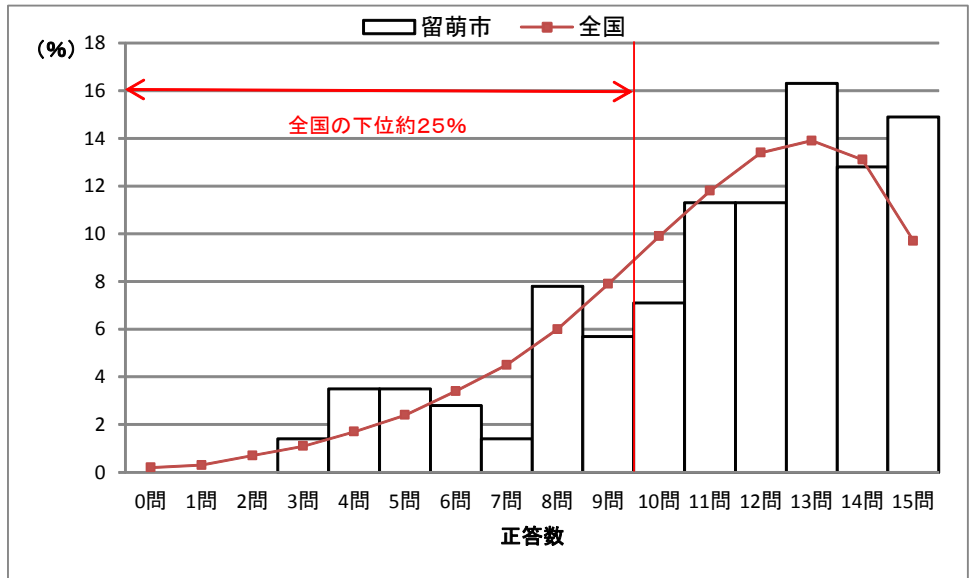


(1) 各領域別正答率の傾向

- ・「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。
- ・「読むこと」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「書くこと」の領域は、全国と比べやや低い傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、全国と同様に15問中13問正解した児童数が最も多い。
- ・全国と比べて、13問以上正解した上位層の割合が多い。
- ・全国の下位層約25%に入る児童の割合は、正答数に凹凸はあるが全国と概ね同様である。



(3) 設問別の正答率の概要

<全国以上の平均正答率の設問から>

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 5／15問	(H26) 9／15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	故事成語の意味と使い方を理解する	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	80.1%	55.8%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (かぜをよぼうする)	85.8%	77.4%

<全国以下の平均正答率の設問から>

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと	仮定の表現として、適切なものを捉える	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	78.0%	83.1%
書くこと	情景描写の効果を捉える	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	53.9%	58.7%

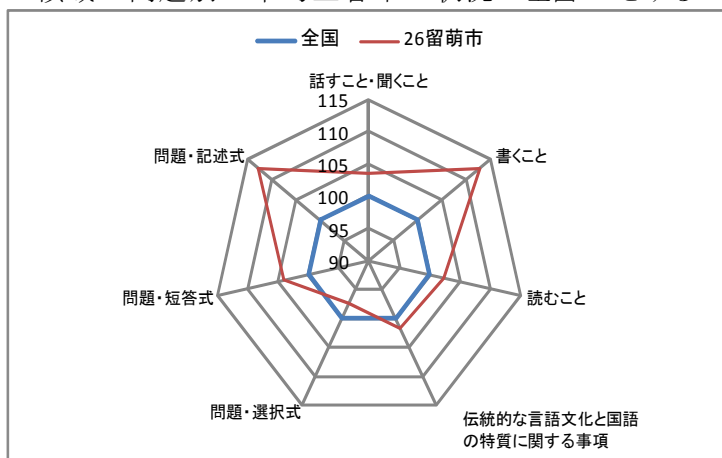
国語Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては？

- 文や文章の構成を整えて書くためには、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要である。そのためには、語句の意味を正しく捉えることや、接続詞の役割について理解することができるように指導することが大切である。
- 物語などの文学的な文章を読むことにおいては、描写の工夫（行動や表現、会話（内言）、風景など）の効果を理解することができるように指導することが大切である。その際、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導することが重要となる。

3 小学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	5.7問／10問	57.0%
北海道	5.3問／10問	52.9%
全国	5.5問／10問	55.5%

<領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする>

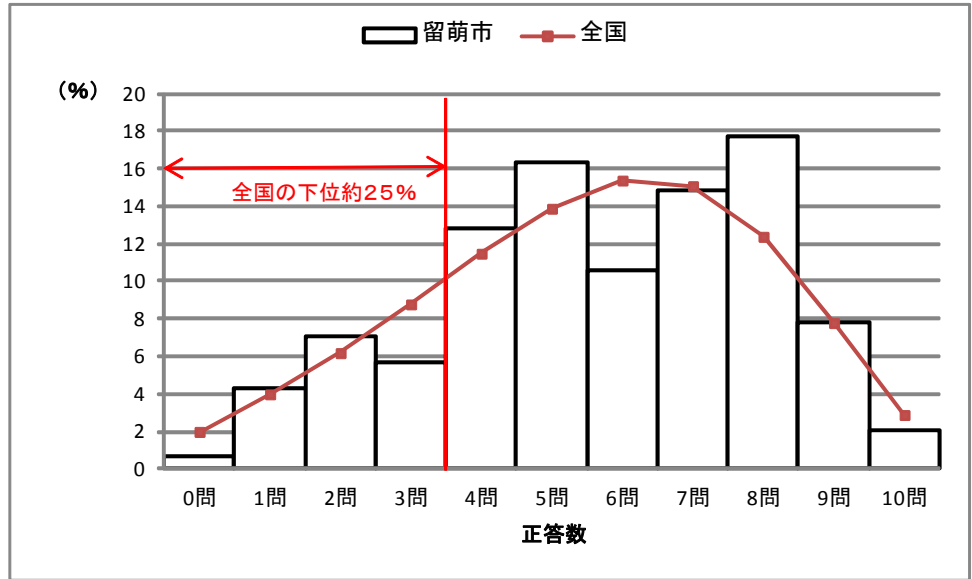


(1) 各領域・問題別正答率の傾向

- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。
- ・「書くこと」の領域は、全国と比べやや高い傾向を示している。
- ・記述式の問題については、全国と比べてやや高い傾向を示している。よって、それらの解答についての無解答率は全国と比べてもいずれもかなり低くなっている。
- ・短文式の問題については、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。また選択式の問題については、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、10問中8問正解した児童数が最も多い。
- ・全国と比べ、8問以上正解した上位層の割合が多い。
- ・全国の下位層約25%に入る児童の割合は、全国よりもやや少ない。



(3) 設問別の正答率の概要

<全国以上の平均正答率の設問から>

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 2/10問	(H26) 8/10問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと 書くこと	立場を明確にして、質問や意見を述べる	発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	37.6%	28.3%
読むこと	課題解決のため目次や索引を活用して、本を効果的に読む	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	69.5%	66.0%

<全国以下の平均正答率の設問から>

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	質問の意図を捉える	質問のねらいとして適切なものを選択する	53.2%	60.2%
読むこと	詩の解釈における着眼点の違いを捉える	詩の解釈として適切なものを選択する	46.8%	48.5%

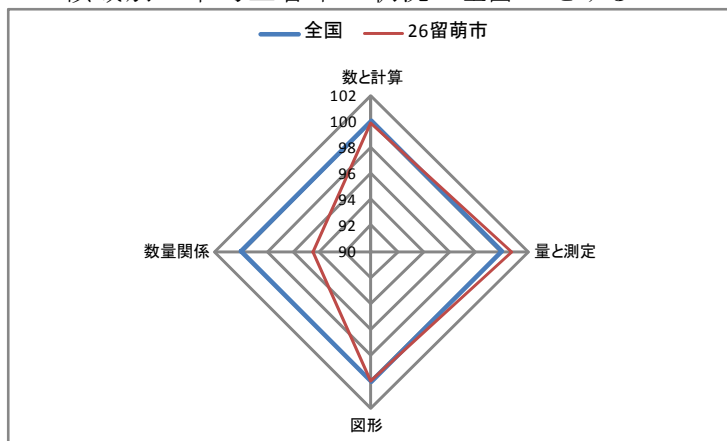
国語Bにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては？

- 話し合いを計画的に進め、一定の結論に導いていくためには、互いの立場や意図を明確にして質問をし合うことが重要で、そのため、多様な質問の観点とそれに基づく話型を具体的に指導することが大切である。
- 詩を様々な着眼点から解釈し、考えたことを交流することが重要になる。そのため、自分の考えと相手の考えとを比較しながら、共通点や相違点を整理することができるように指導することが大切である。

4 小学校算数A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	13.2問／17問	77.6%
北海道	12.9問／17問	75.8%
全国	13.3問／17問	78.1%

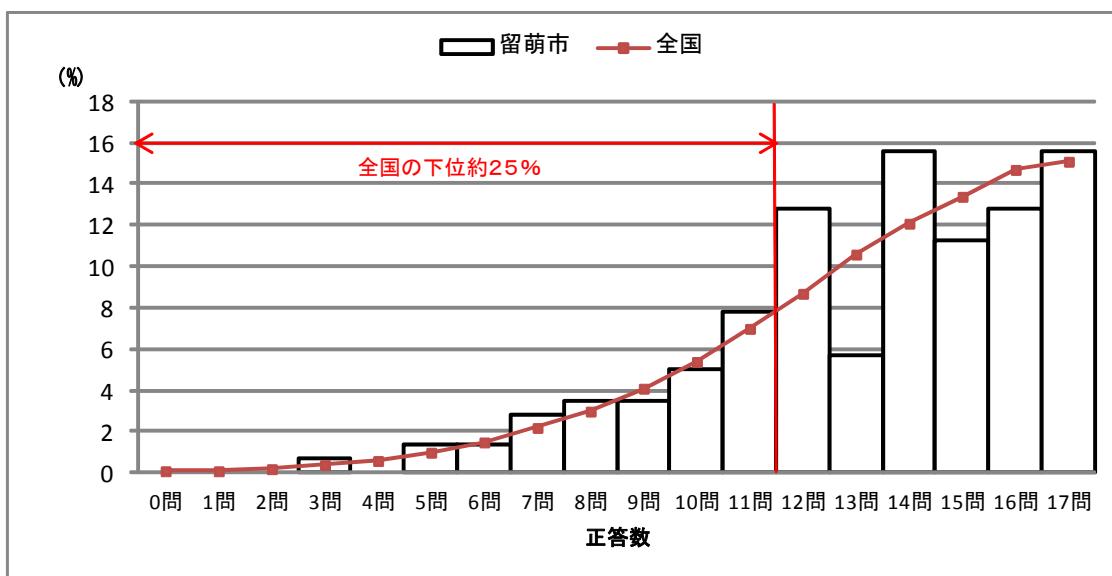
<領域別の平均正答率の状況～全国100とする>



(1) 各領域別正答率の傾向

- ・「数と計算」「量と測定」「図形」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「数量関係」の領域は、全国と比べやや低い傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向



- ・正答数の分布は、全国と同様に17問中17問正解した児童数と14問正解した児童数が最も多い。
- ・全国と比べ、14問以上正解した上位層の割合は同様であるが、15問以上正解した割合はやや少ない。
- ・全国の下位層約25%に入る児童の割合は、全国と概ね同様である。

(3) 設問別の正答率の概要

<全国以上の平均正答率の設問から>

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 6／19問	(H26) 8／17問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
量と測定	単体量当たりの大きさの求め方を理解している	8㎡に16人いるAの部屋について、1㎡当たりの人数を求める式を書く	66.0%	60.8%
数と計算	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	903×6を計算する	97.2%	92.8%

<全国以下の平均正答率の設問から>

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数量関係	四則の混合した式の意味について理解している	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ	70.2%	81.0%
数と計算	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合) になることを理解している	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	48.9%	54.1%
図形 数量関係	二つの数量の関係を□、△等の記号を用いて式に表すことができる	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ	78.7%	82.0%

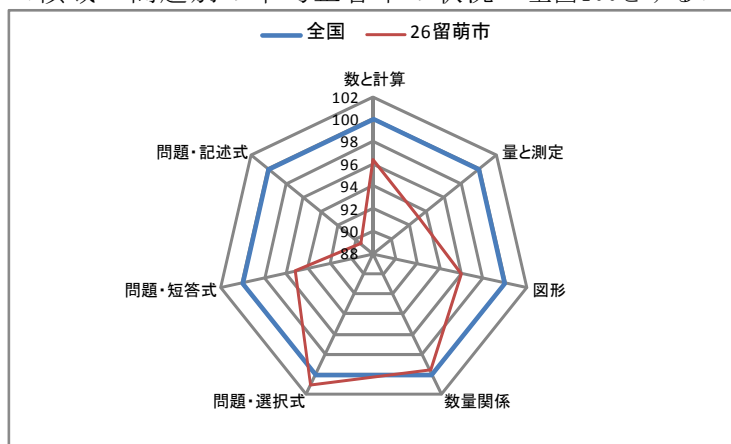
算数Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては？

- 四則の混合した式や()を用いた式の指導において、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことが考えられるが、幾つかの式を一つの式にまとめて処理することも大切である。また逆に、式から言葉や図を用いて具体的な場面を構成することも考えられる。()を用いたり、乗法、除法を用いたりして表された式が一つの数量を表すことを確実に理解できるようにすることが大切である。
- 計算の指導にあたっては、特に「計算の意味について理解すること」が大切である。また、基準量と比較量の関係を観察し、的確に捉えることが重要になってくる。
- □、△などの記号は、変数を表す記号として理解できるようにすることが大切である。また、変数を□、△などを用いて式に表すと、数量の関係を簡潔、明瞭、的確に、また、一般的に表すことができるというよさを理解できるようにすることが大切である。

5 小学校算数B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.2問/13問	55.5%
北海道	7.2問/13問	55.2%
全国	7.6問/13問	58.2%

<領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする>



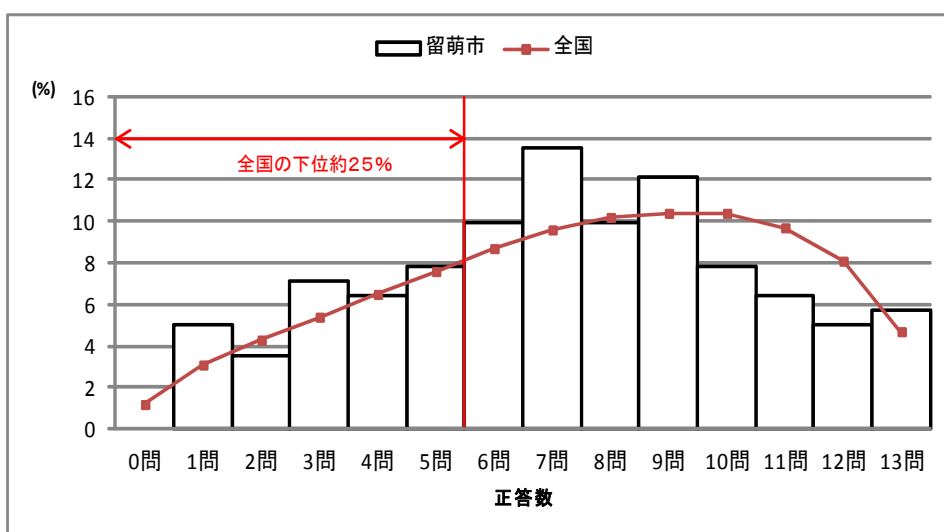
(1) 各領域・問題別正答率の傾向

- ・「数量関係」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「数と計算」「図形」の領域は、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向を示している。
- ・「量と測定」の領域は、全国と比べやや低い傾向を示している。
- ・記述式の問題については、全国と比べて低い傾向を示している。ただし、それら5問のうち4問についての無解答率は低くなっている。

- ・選択式の問題については、全国と同様の傾向を示し、短答式の問題については、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、13問中7問正解した児童数が最も多い。
- ・全国と比べ、中位層が多く、11問以上正解した上位層の割合に開きが見られる。
- ・全国の下位層約25%に入る児童の割合は、全国とほぼ同様(下位)である。



(3) 設問別の正答率の概要

< 全国以上の平均正答率の設問から >

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 3/13問	(H26) 4/13問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	60.3%	56.7%
数と計算 数量関係	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	63.8%	62.2%

< 全国以下の平均正答率の設問から >

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く(記述式)	46.1%	60.5%
量と測定	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く(記述式)	22.0%	30.6%
量と測定	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	31.9%	38.6%
数と計算 量と測定	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	6・7月の水の使用量1500m ³ は、プールに入る水の量250m ³ の何倍かを求める式と答を書く	78.0%	82.5%

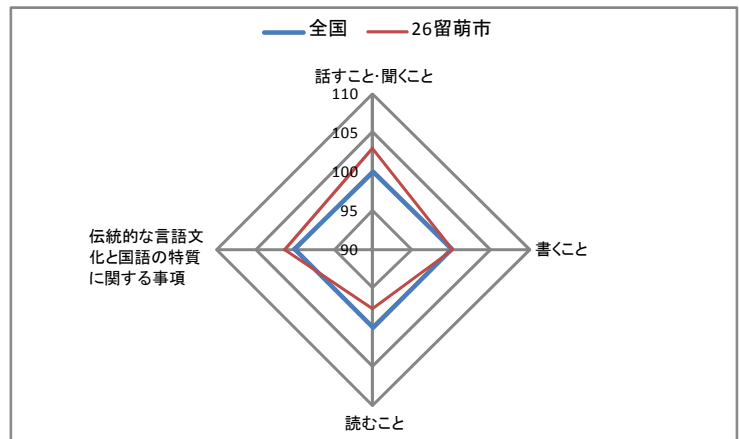
算数Bにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては？

- 日常の事象を算数の内容と関連付け、学習した用語を用いて的確に表現できるようにすることが大切である。そのため、普段の授業から、児童の素朴な表現を算数の用語を用いて表現し直すことが考えられる。
- 問題を解決した過程を説明する際には、問題(文章や図、表、グラフ等)から必要となる情報を選択するとともに、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を的確に示すことが大切である。
- 日常生活において、複数の条件に合わせて行動の計画を立てることはよく行われる。その際、算数で学習した時刻や時間の読み方及び求め方が必要になるとともに、筋道立てて考えることが大切である。
- 基準量と比較量を的確に捉え、二つの数量の大小に関わらず、割合(倍)を確実に求めることができるが重要である。そのためには、数直線や線分図に表す活動を通して、それらの数量の関係を捉えることが考えられる。まずは、(比較量) ÷ (基準量) = (割合) という関係を確実に捉えることが大切である。

6 中学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	25.6問／32問	80.0%
北海道	25.4問／32問	79.4%
全国	25.4問／32問	79.4%

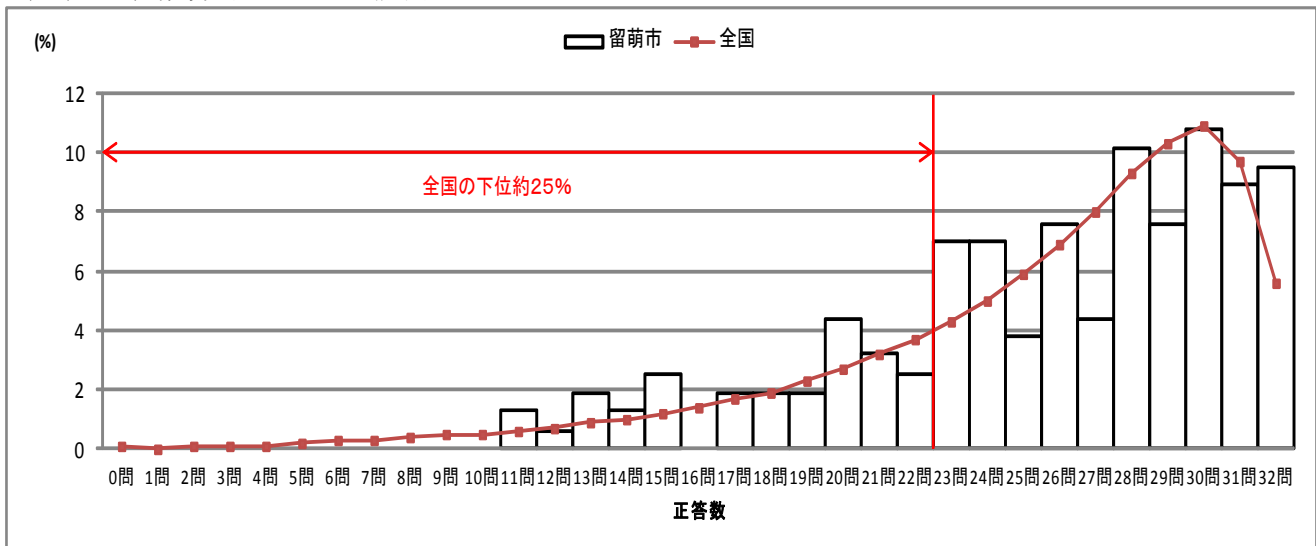
＜領域別の平均正答率の状況～全国100とする＞



(1) 各領域別正答率の傾向

- ・「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。
- ・「書くこと」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「読むこと」の領域は、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向



- ・ 正答数の分布は、全国と同様に32問中30問正解した生徒数が最も多い。
- ・ 全国と比べ、30問以上正解した上位層の割合が多い。
- ・ 全国の下位層約25%に入る生徒の割合は全国と概ね同様である。

(3) 設問別の正答率の概要

<全国以上の平均正答率の設問から>

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 15/32問	(H26) 16/32問
----------------	--------------	--------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く (計画を行動に <u>ウツ</u> す)	82.9%	73.6%
話すこと・聞くこと	話合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	話合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	83.5%	76.0%
話すこと・聞くこと	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する	85.4%	78.6%

<全国以下の平均正答率の設問から>

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く (地域の人を <u>ショウタイ</u> する)	51.3%	57.6%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	古典と昔話とを対応させて内容を捉える	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	66.5%	71.0%
話すこと・聞くこと	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	75.9%	80.3%

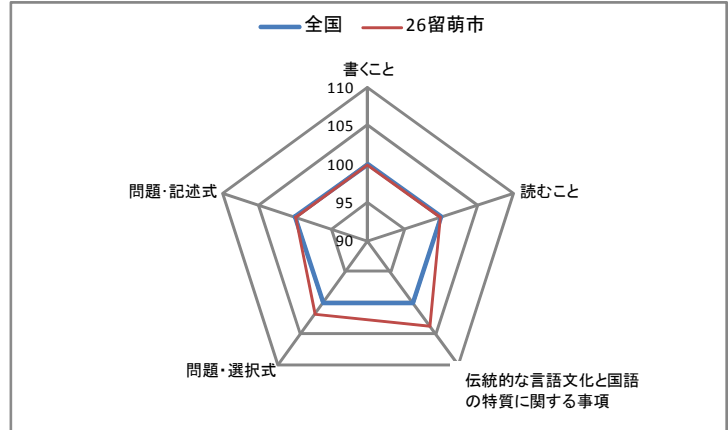
国語Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては？

- 古典の学習の際には、古典の原文を読むだけでなく、現代語訳を読んで内容を理解し、古典の文章に表れたものの見方や考え方に触れることが大切である。例えば、現代語訳や古典について解説した様々な文章を読んだり、音声や映像メディアを活用したりすることにより、現代の生活と比較しながら古典の世界に親しむ学習活動が考えられる。
- 報告や説明を聞く際には、疑問に思ったことや確認したいことに加え、更に知りたいことなどをメモしながら聞くことが重要である。その上で、適切な質問をすることにより必要な情報を得るように指導することが引き続き大切である。

7 中学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	4.6問／9問	51.5%
北海道	4.5問／9問	49.9%
全国	4.6問／9問	51.0%

＜領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする＞

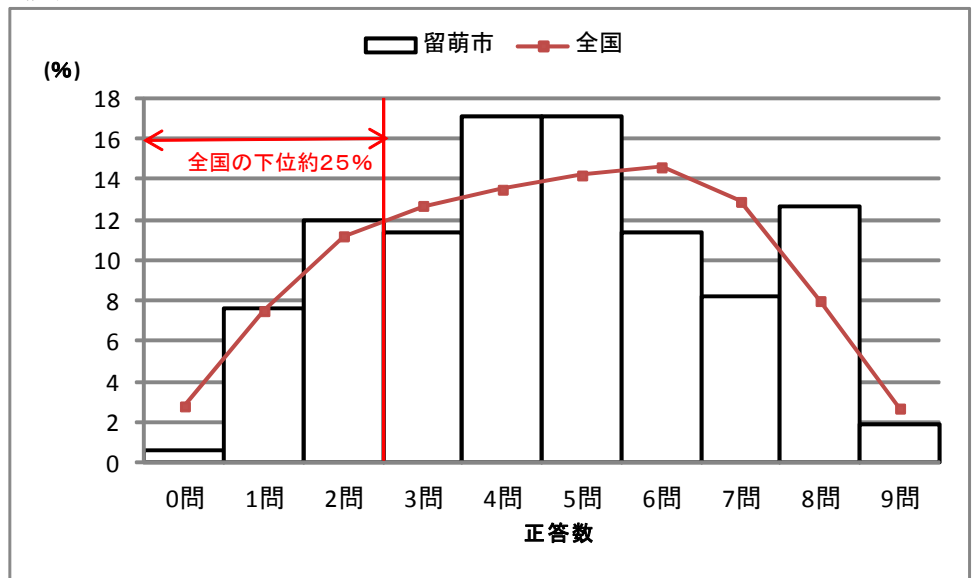


(1) 各領域・問題別正答率の傾向

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。
- ・「書くこと」「読むこと」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・記述式の問題については、全国と同様の傾向を示している。それらの解答についての無解答率も全国と比べてもいずれも低くなっている。
- ・選択式の問題については、全国と比べほぼ同様(上位)の傾向を示している。

(2) 正答率分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、9問中5問正解した児童数と4問正解した生徒数が最も多い。
- ・全国と比べ、中位層が多く、7問以上正解した上位層の割合はほぼ同じである。
- ・全国の下位層約25%に入る生徒の割合は、少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

＜全国以上の平均正答率の設問から＞

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 5／9問	(H26) 5／9問
----------------	------------	------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと・読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	ノートを基に、標語から伝わってくる(メッセージ)とく表現の工夫とその効果>を書く(記述式)	54.4%	48.2%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	表現の技法について理解する	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	70.3%	65.3%

＜全国以下の平均生等率の設問から＞

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと・読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	落語に表れているもの の見方や考え方について、 根拠を明確にして自分の考えを書く	落語の演じ方を選択し、 なぜそのように演じるのかを、 本文を根拠に殿さまの気持ち を想像して書く。(記述式)	42.4%	46.5%
読むこと	複数の資料を比較して読み、 要旨を捉える	本とインターネットの内容を比較した ときの説明として適切なもの を選択する	28.5%	31.4%

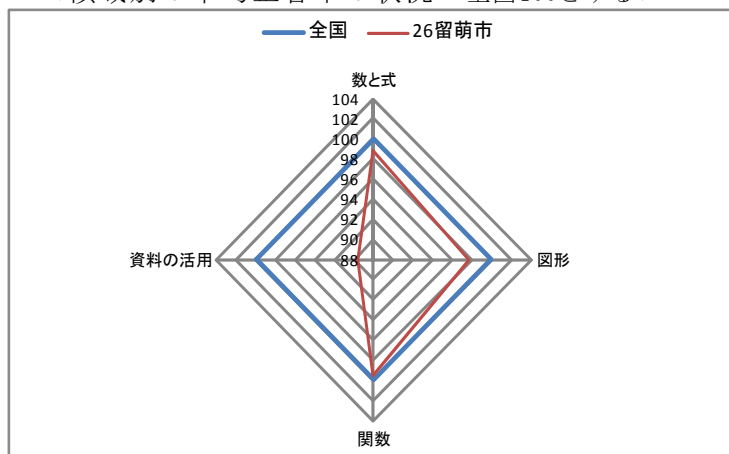
国語Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては？

- 文学的な文章を読む際には、場面ごとに登場人物の心情を独立して捉えるだけでなく、文章の展開に即して変化していく心情を捉えることが重要である。さらに、登場人物の心情や作者の思いなどを想像するためには、自分が感じたことや考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにすることが重要である。
- 目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。

8 中学校数学A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	23.7問／36問	65.8%
北海道	23.8問／36問	66.0%
全国	24.3問／36問	67.4%

＜領域別の平均正答率の状況～全国100とする＞

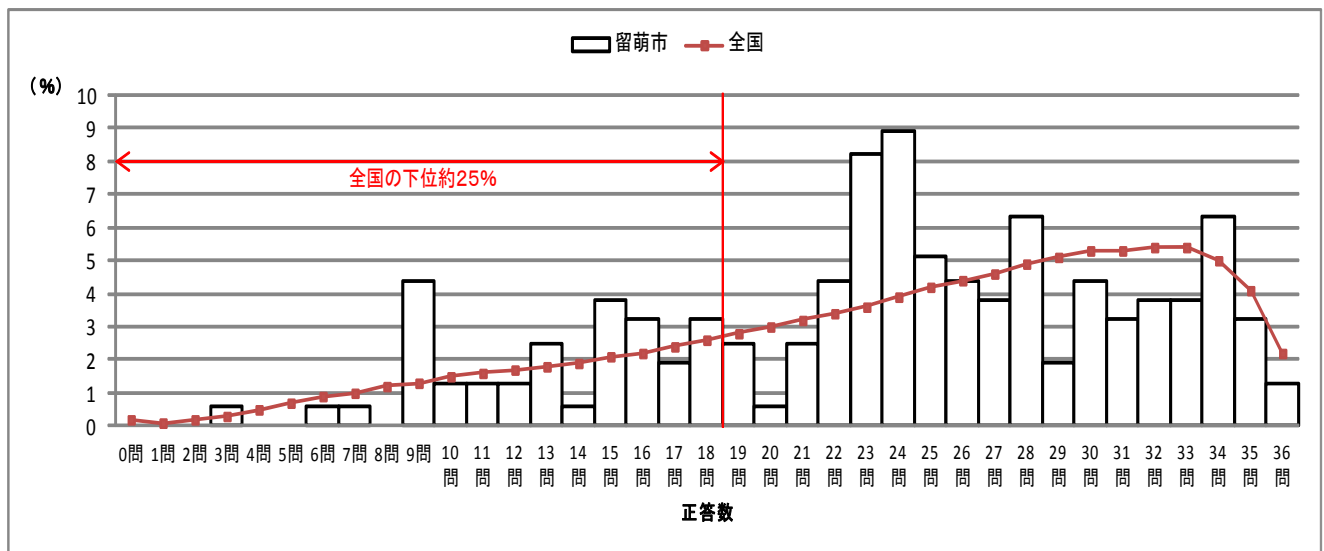


(1) 各領域別正答率の傾向

- ・「数と式」「関数」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「図形」の領域は、全国と比べほぼ同様(下位)の傾向を示している。
- ・「資料の活用」の領域は、全国と比べ低い傾向を示している。

(2) 正答率分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、36問中24問正解した生徒数が最も多い。
- ・全国と比べ、中位層が多く、特に22問から28問正解した生徒は4割を超えている。また、32問以上正解した上位層の割合は全国との開きが見られる。
- ・全国の下位層約25%に入る生徒の割合は、全国とほぼ同様(下位)である。



(3) 設問別の正答率の概要

<全国以上の平均正答率の設問から>

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 8/36問	(H26) 18/36問
----------------	-------------	--------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	一次関数の変化の割合の意味を理解している	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	58.2%	47.3%
数と式	絶対値の意味を理解している	-7の絶対値を書く	88.0%	81.0%
数と式	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	66.5%	59.5%

<全国以上の平均正答率の設問から>

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
資料の活用	樹形図などを利用して、確率を求めることができる	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	39.9%	65.1%
数と式	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	$2 \times (-5^2)$ を計算する	52.5%	70.7%
数と式	数量の大小関係を不等式に表すことができる	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	34.8%	45.2%
図形	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	長方形 ABCD において、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	51.3%	61.7%

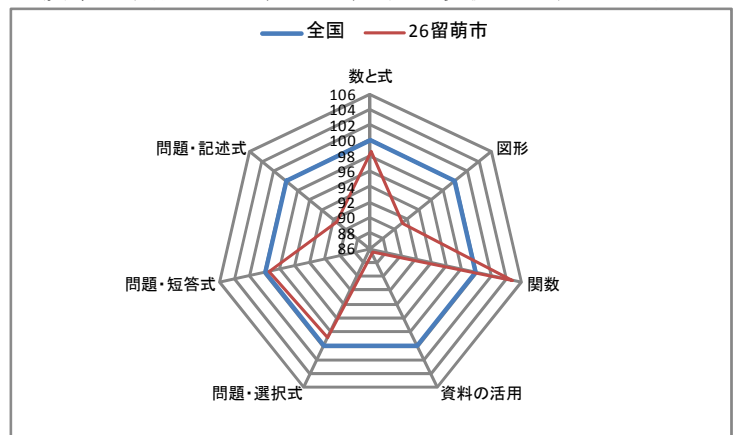
数学Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては？

- 確率を求めることができるようにするために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げられるように指導することが大切である。
- 指数を含む正の数と負の数の計算では、計算の順序を理解し、確実に計算できるように指導することが大切である。その際、誤りのある計算例を取り上げ、計算方法を確認する場面を設定することが考えられる。
- 事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことができるように指導することが大切である。例えば、「深さは120cm以下である」から「 x は120より小さいか等しい」と捉え、「 $x \leq 120$ 」と表せるように指導することが大切である。
- 図形の構成要素やそれらの関係を記号で表したり、記号で表された図形の構成要素やそれらの関係を読み取ったりすることができるように指導することが大切である。

9 中学校数学B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	8.7問／15問	58.0%
北海道	8.9問／15問	59.4%
全国	9.0問／15問	59.8%

<領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする>



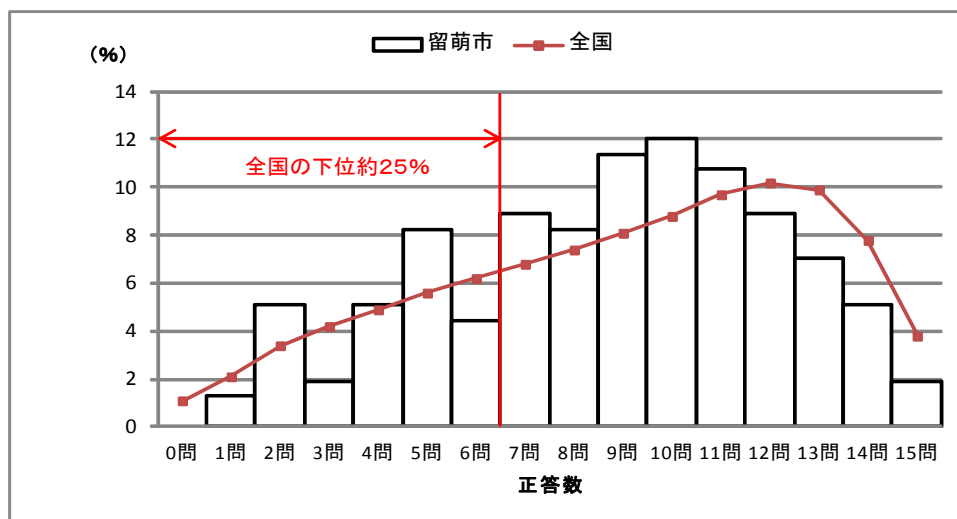
(1) 各領域・問題別正答率の傾向

- ・「関数」の領域は、全国と比べやや高い傾向を示している。
- ・「数と式」の領域は、全国と同様の傾向を示している。
- ・「図形」の領域は、全国と比べ低く、さらに「資料の活用」の領域は相当低い傾向を示している。

- ・記述式の問題については、全国と比べてやや低い傾向を示している。ただし、それら5問中4問の無解答率は全国と比べ低くなっている。
- ・選択式、短答式の問題については、いずれも全国と同様の傾向を示している。

(2) 正答数分布グラフの傾向

- ・正答数の分布は、15問中10問正解した生徒数が最も多い。
- ・全国と比べ、中位層の割合が特に多く、13問以上正解した上位層の割合に全国とかなり開きが見られる。
- ・全国の下位層約25%に入る生徒の割合は、全国とほぼ同様(上位)である。



(3) 設問別の正答率の概要

< 全国以上の平均正答率の設問から >

平均正答率が全国以上の設問数	(H25) 2/16問	(H26) 7/15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	事象を理想化・単純化し問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる	大地さんの求め方を基に、ウェブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	72.8%	62.3%
数と式	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m + 2n$ を変形する	64.6%	61.2%

< 全国以下の平均正答率の設問から >

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
図形	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	50.6% (記述式)	60.6%
資料の活用	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	22.2% (記述式)	32.1%
図形	付加された条件の下で、振り返って考え、事柄を用いることができる	$\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	15.2%	23.3%
数と式	予想された事柄が成り立たないことを判断、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	37.3% (記述式)	44.2%

数学Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては？

- 日常的な事象の問題について、数学を活用して解決できるようにするために、事象を理想化・単純化して数学の世界で考察し、得られた結果を事象に即して解釈できるように指導することが大切である。
- 確率を用いて不確定な事象を捉えられるようにするために、起こり得る場合を分類整理できるように指導することが大切である。特に、樹形図を利用して落ちや重なりがないように数え上げる必要があることを理解できるようにすることが考えられる。
- 不確定な事象の起こりやすさを判断し、その理由を説明できるようにすることが大切である。その際、説明する事柄（B）とその根拠（A）を明確に区別し、「（A）であるから、（B）である。」のように簡潔にわかりやすく説明できるようにすることが大切である。
- 証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにするために、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり証明を読んだりすることを通して、新たな性質を見いだすことができるように指導することが大切である。
- 与えられた事柄や予想した事柄について、条件に当てはまる具体例をあげ、それが結論を満たすかどうかを調べる活動を取り入れ、事柄が成り立つかどうかを判断できるように指導することが大切である。また、事柄が成り立つと判断した場合には文字式を用いて根拠を明らかにして説明し、成り立たないと判断した場合には反例をあげて説明する活動を取り入れ、事柄が成り立つかどうかの判断に応じて理由を説明できるように指導することが大切である。

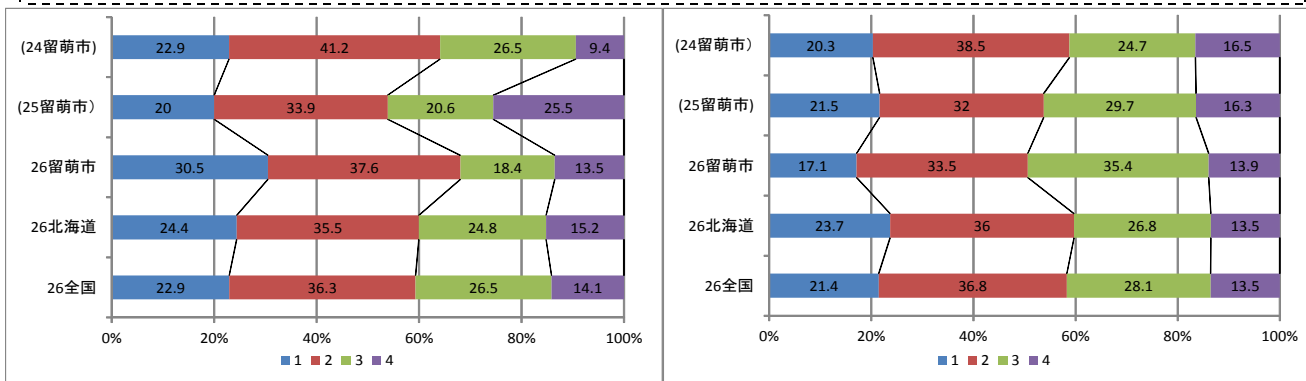
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。（5の(3)を除く）

1 学習に対する関心・意欲・態度

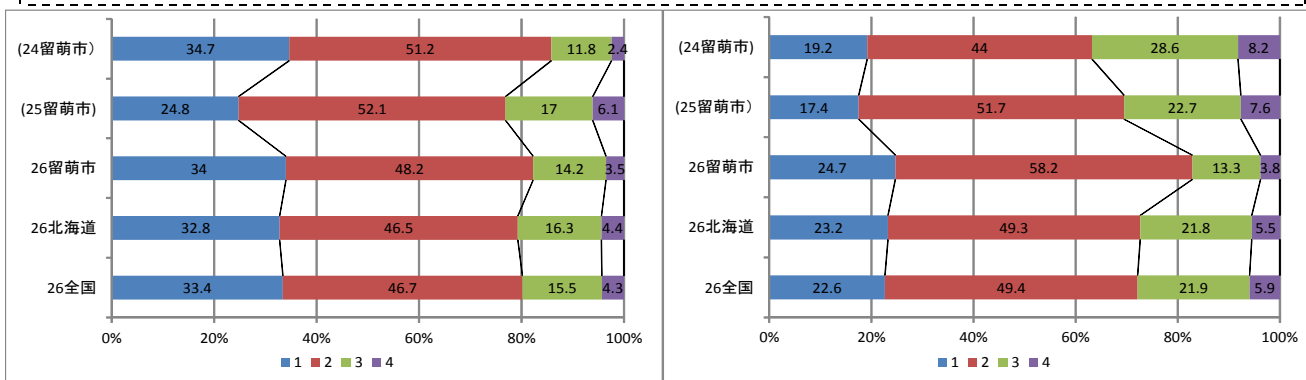
(1) 国語の勉強は好きですか<児童生徒質問紙>

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



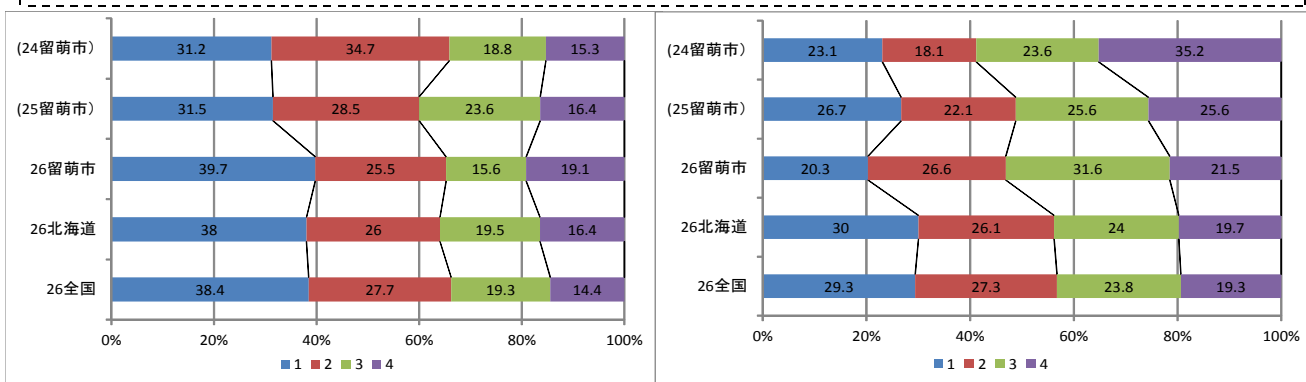
(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)と同様



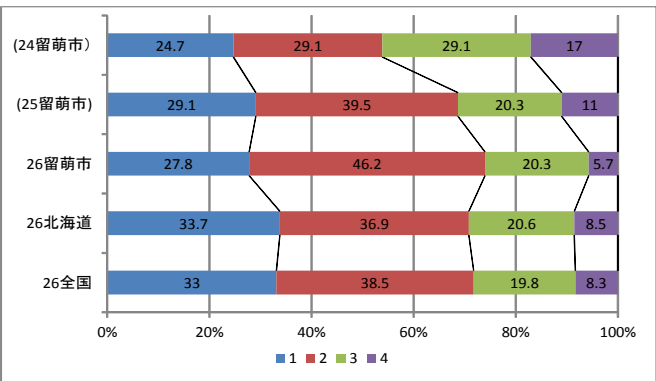
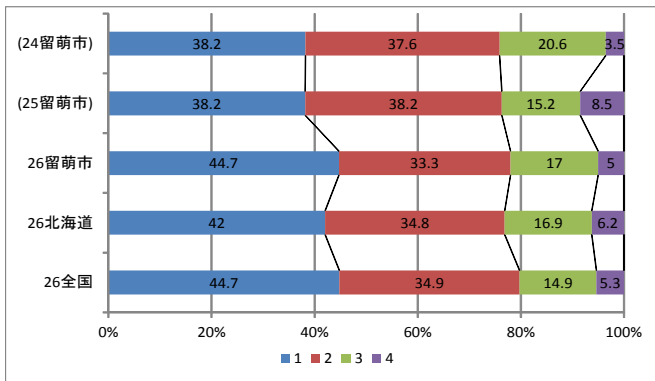
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)と同様



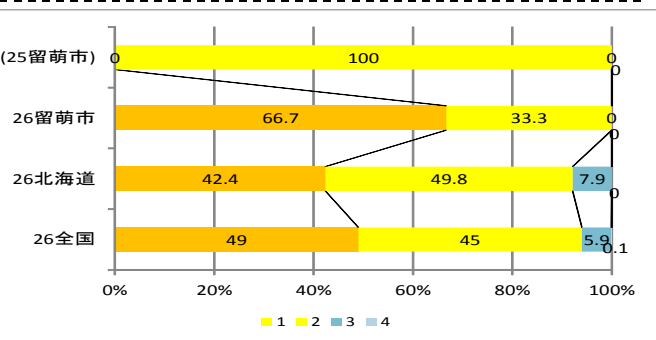
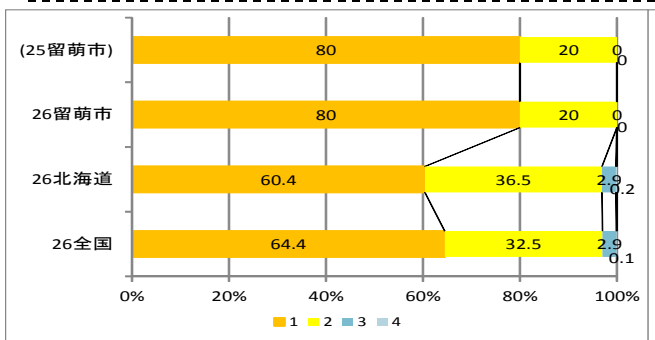
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)と同様



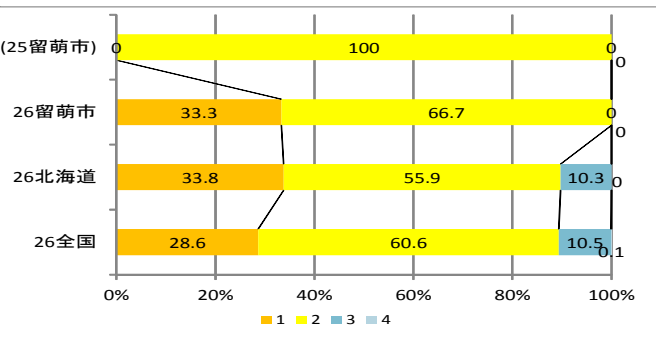
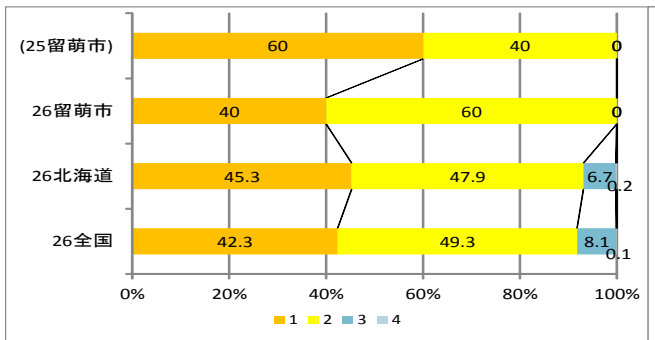
(5) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか<学校質問紙>

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない
4 全く行っていない



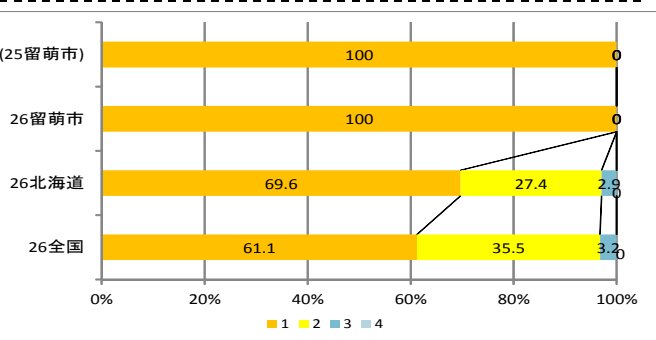
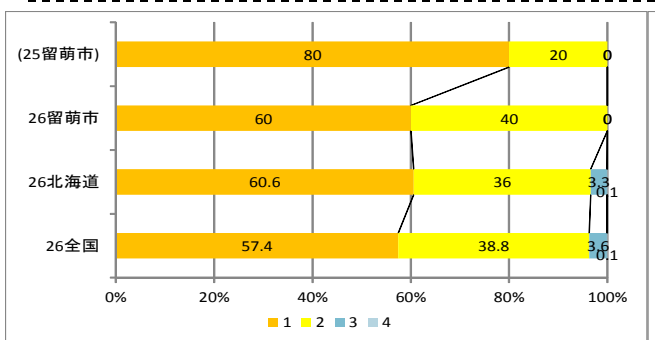
(6) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか<学校質問紙>

選択肢は（5）と同様



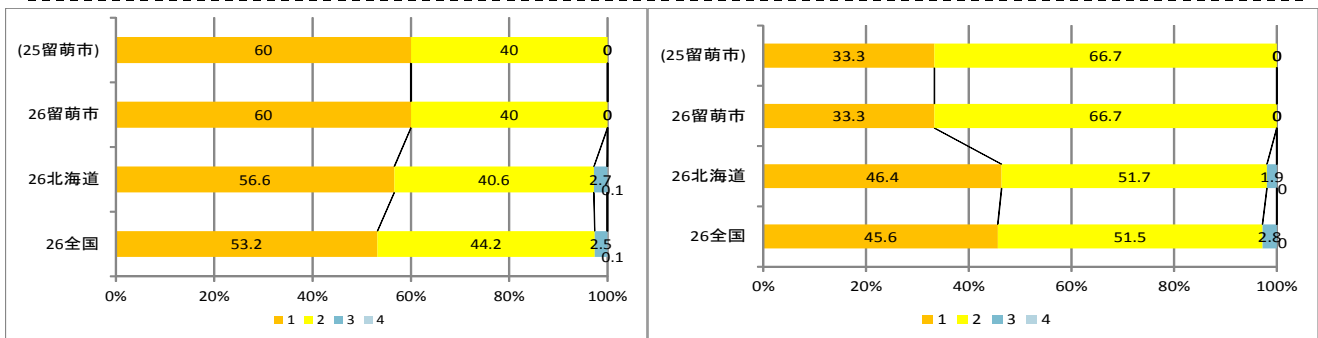
(7) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか<学校質問紙>

選択肢は（5）と同様



(8) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしましたか<学校質問紙>

選択肢は(5)と同様



【小学校】

- ・国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は全国、25年度と比べ相当高くなっている。また、国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は25年度と比べ高くなっている。
- ・算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は25年度と比べ高くなっている。
- ・各学校では25年度と変わらず、授業の導入、終末などの指導方法や学習規律、ノート指導を含めた学習方法などの取組を行っている。

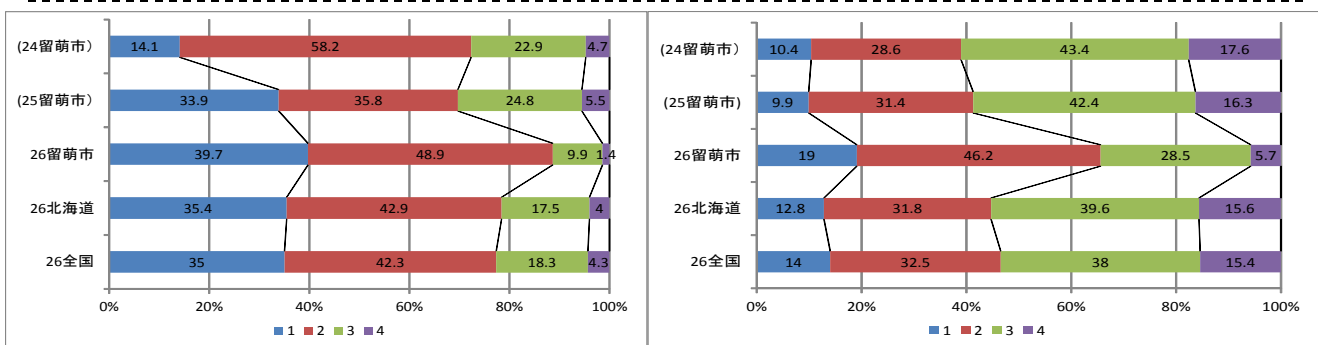
【中学校】

- ・国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は全国と比べ相当低くなっている。一方、国語の授業に内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は全国、25年度と比べ、相当高くなっている。
- ・数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は全国と比べ相当低くなっている。一方、数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は25年度と比べやや高くなっている。
- ・各学校では授業の導入、終末などの指導方法については25年度よりも積極的に取り組むようになってきている。

2 学習状況

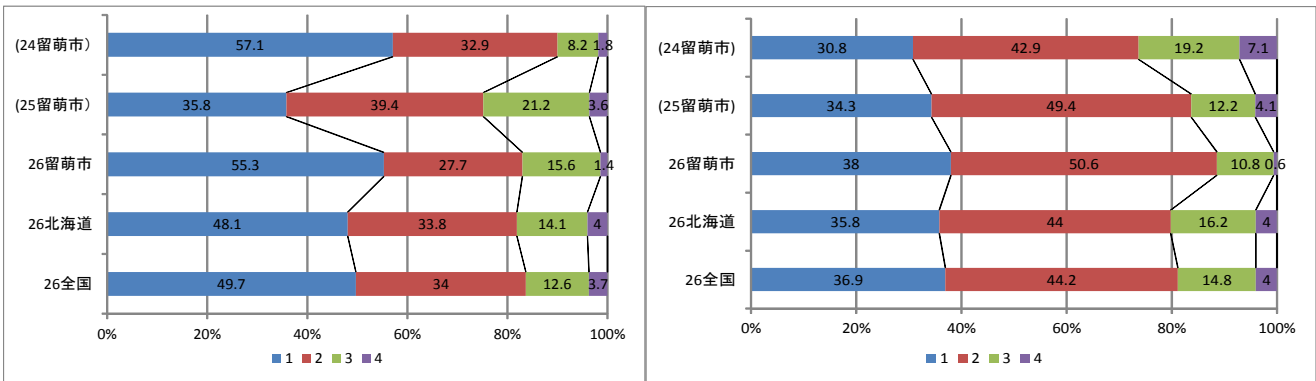
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか<児童生徒質問紙>

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



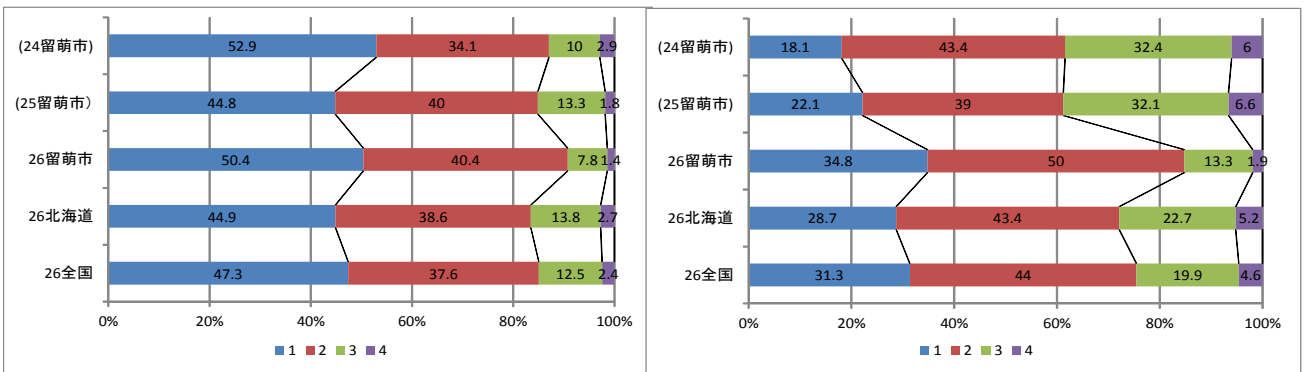
(2) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では, 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)と同様



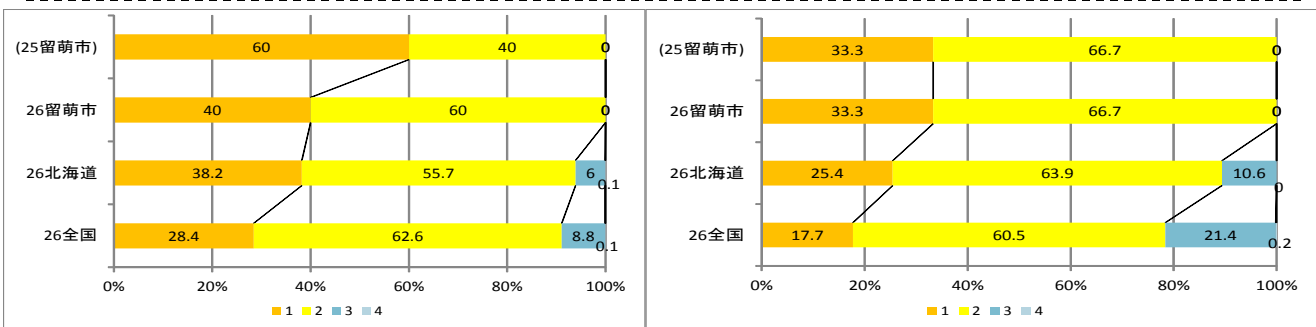
(3) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では, 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)と同様



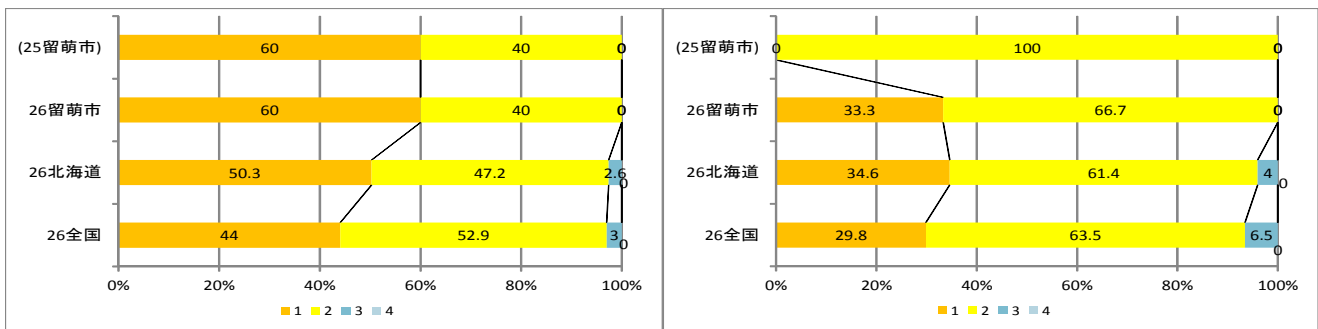
(4) 調査対象学年の児童(生徒)に対して, 前年度までに, 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか<学校質問紙>

- 1 よく行った 2 どちらかといえば, 行った 3 あまり行っていない
4 全く行っていない



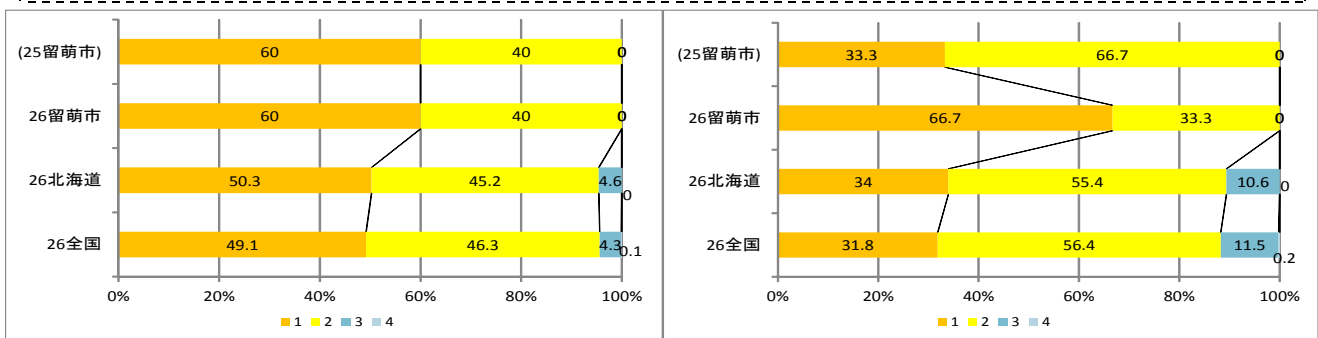
(5) 調査対象学年の児童(生徒)に対して, 前年度までに, 発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか<学校質問紙>

選択肢は(4)と同様



(6) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか<学校質問紙>

選択肢は(4)と同様



【小学校】

- ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思うと肯定的に回答した児童の割合は全国、25年度と比べ相当高くなっている。
- ・自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと肯定的に回答した児童の割合は25年度と比べ相当高くなっている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動がよく行っていたと思うと肯定的に回答した児童の割合は全国、25年度と比べ高くなっている。
- ・各学校では本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くような指導方法や言語活動の充実のための発言や活動の時間を確保した授業、学級やグループで話し合う活動を行う授業などの取組を行っている。

【中学校】

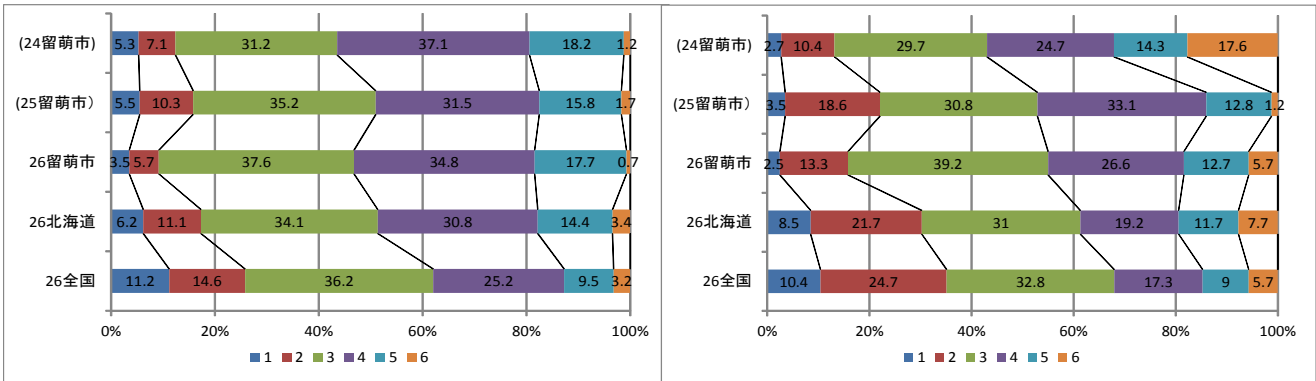
- ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思うと肯定的に回答した生徒の割合は、全国、25年度と比べ相当高くなっている。また、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと肯定的に回答した生徒の割合は全国と比べ相当高く、25年度と比べてもやや高くなっている。これらの項目は増加傾向がうかがえる。
- ・学級の友達との間で話し合う活動がよく行っていたと思うと肯定的に回答した生徒の割合は全国、25年度と比べ相当高くなっている。
- ・各学校での本やインターネットを使った資料の調べ方が身に付くような指導は全国と比べても相当高くなっている。
- ・各学校では言語活動の充実のための発言や活動の時間を確保した授業や学級やグループで話し合う活動を行う授業などを25年度よりも積極的に取り入れている。

3 学習時間等

(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

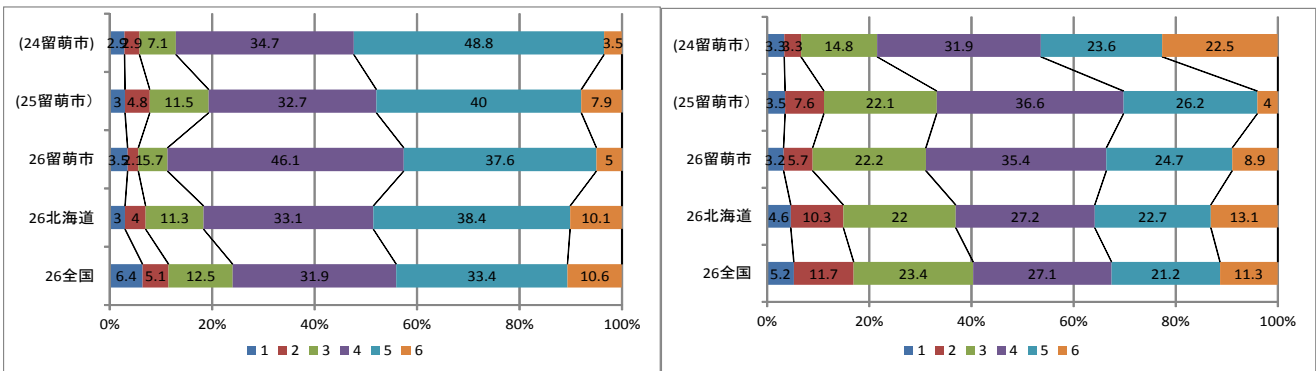
<児童生徒質問紙>

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



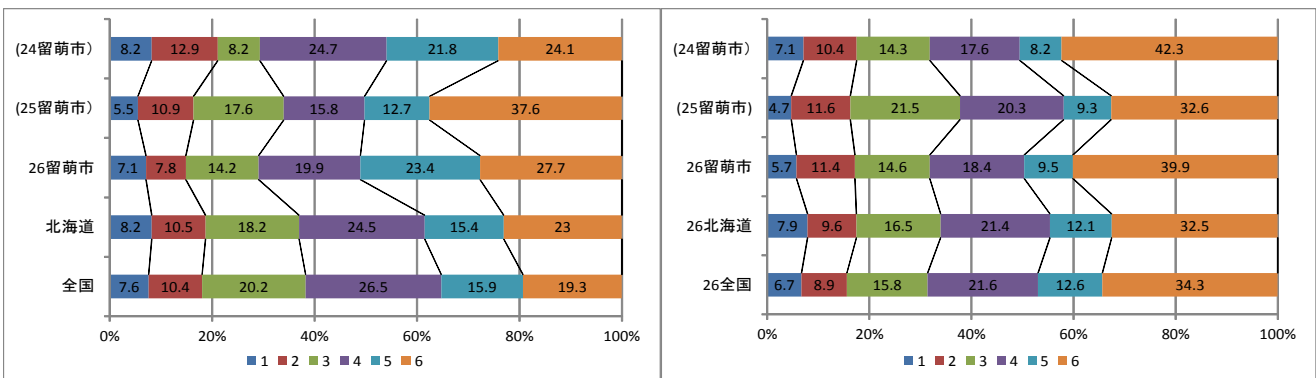
(2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くない



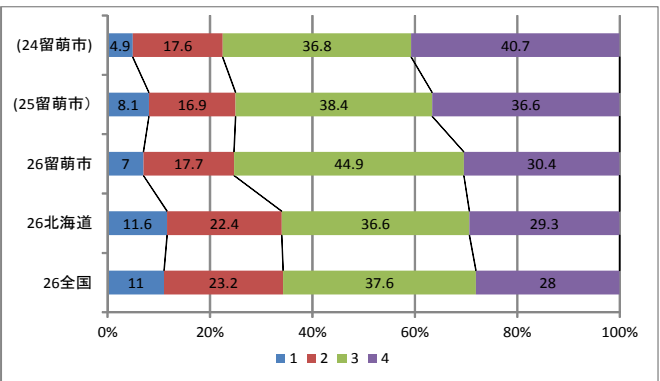
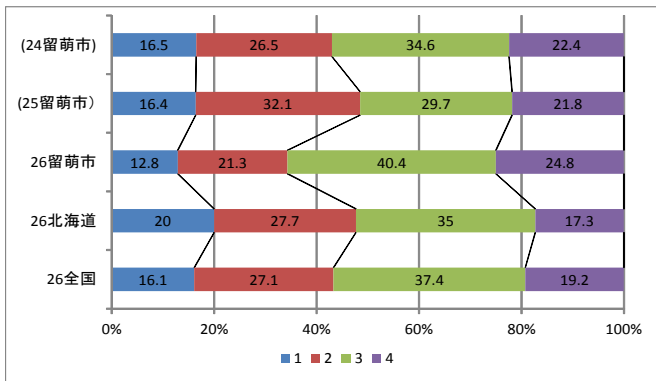
(3) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



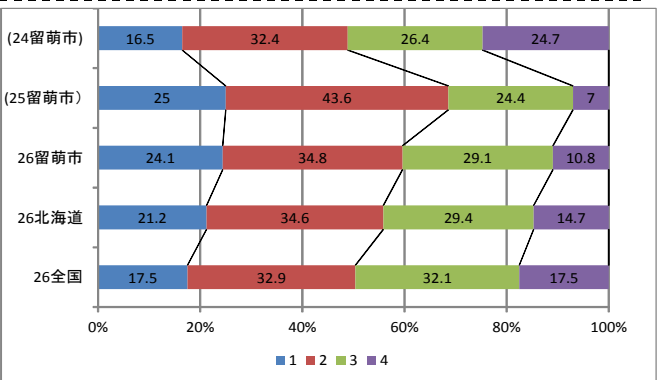
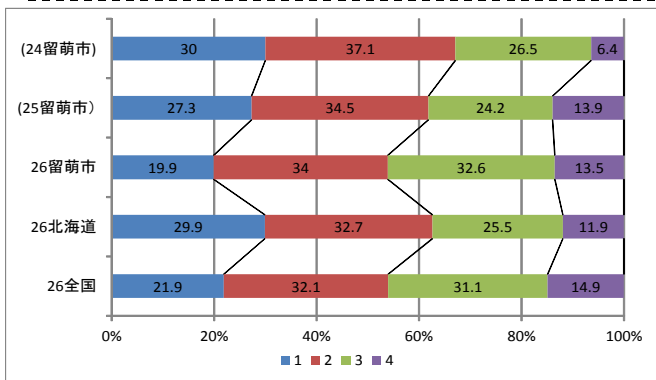
(4) 家で、学校の授業の予習をしていますか

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



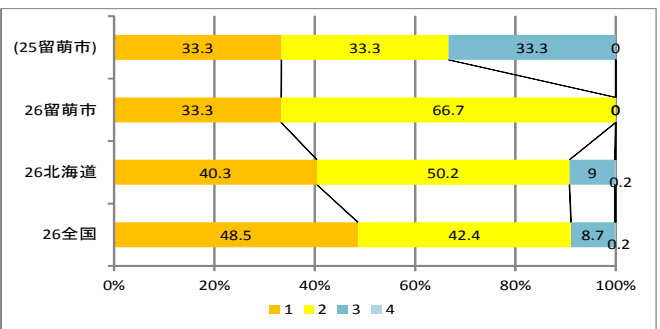
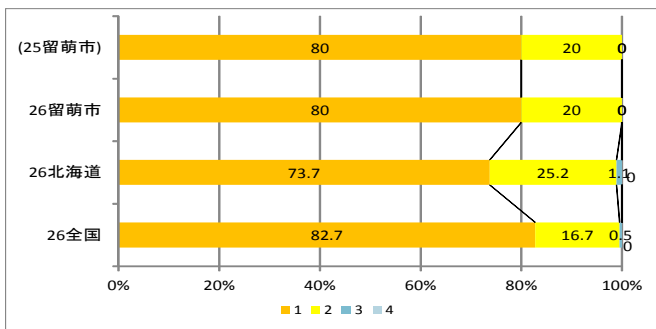
(5) 家で、学校の授業の復習をしていますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(4)と同様



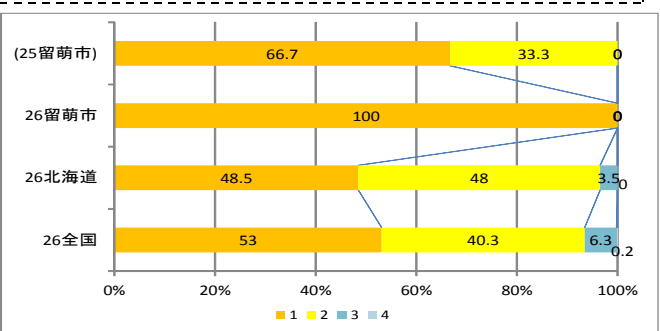
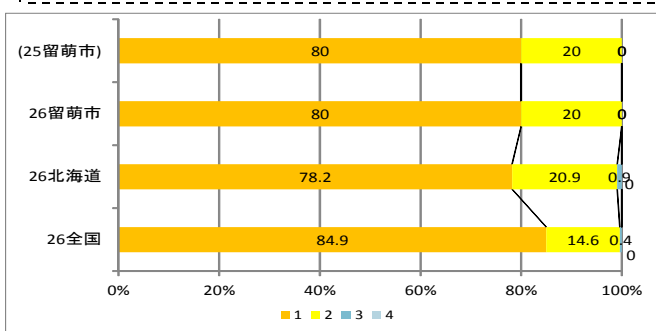
(6) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか<学校質問紙>

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない
4 全く行っていない



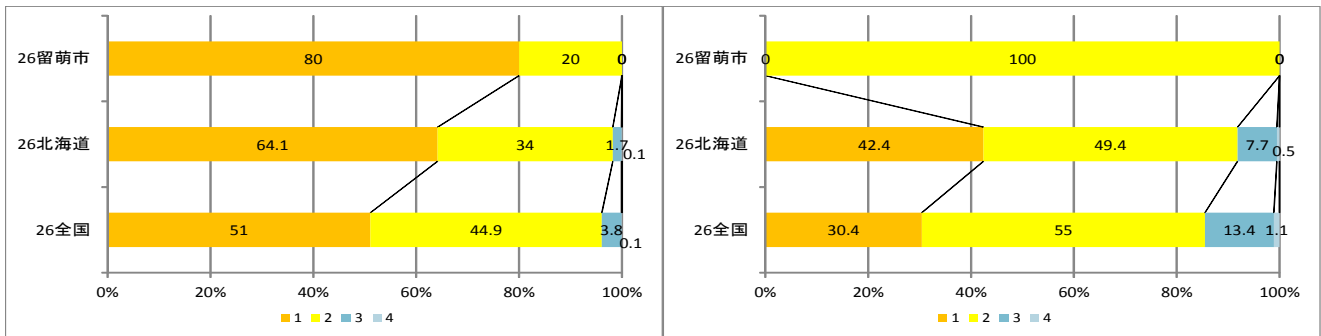
(7) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数(数学)の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか<学校質問紙>

選択肢は(6)と同様



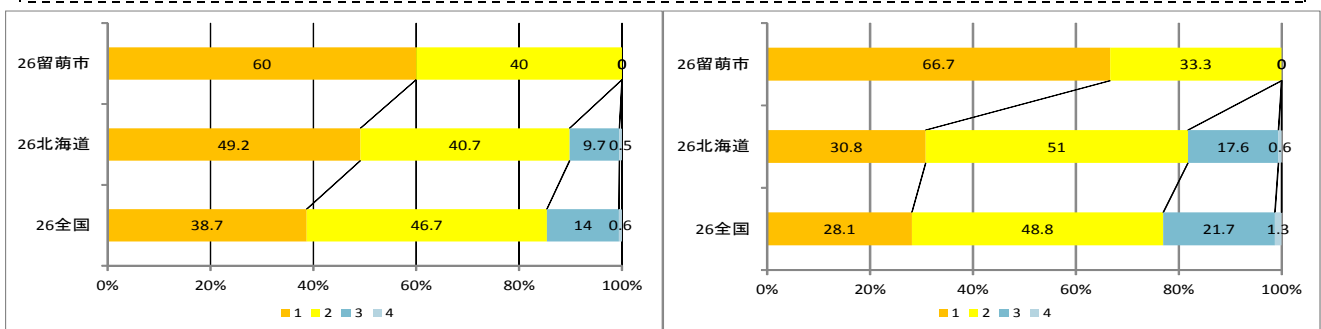
(8) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語/算数・数学共通)(新規)〈学校質問紙〉

選択肢は(6)と同様



(9) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語/算数・数学共通)(新規)〈学校質問紙〉

選択肢は(6)と同様



【小学校】

- ・ 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童の割合は全国と比べ、相当低くなっている。一方、学校が休みの日に1時間以上勉強する児童の割合は全国と変わらず、増加傾向がうかがえる。また、普段、1日当たり30分以上読書している児童の割合は全国と比べ、相当低くなっている。
- ・ 家で授業の予習をしていると肯定的に回答した児童の割合は全国と比べ、相当低くなっているが、復習をしている児童の割合は全国と変わらなくなっている。
- ・ 各学校では国語、算数の家庭学習の課題(宿題)を与える取組を行っている。
- ・ 各学校では保護者に対して家庭学習を促すような働きかけや、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図る取組を行っている。

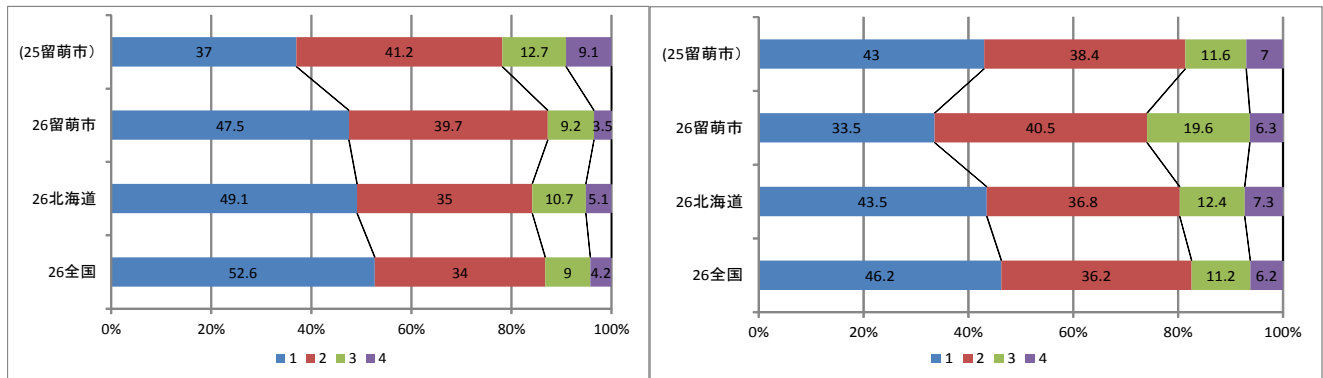
【中学校】

- ・ 普段、1日当たり1時間以上勉強する生徒の割合は全国と比べ、相当低くなっているが、増加傾向がうかがえる。一方、学校が休みの日に1時間以上勉強する生徒の割合は全国と変わらなくなっている。
- ・ 家で授業の予習をしていると肯定的に回答した生徒の割合は全国と比べ、相当低くなっているが、逆に復習をしている生徒の割合は全国と比べ、相当高くなっている。
- ・ 各学校では国語、数学の家庭学習の課題(宿題)を与える取組を行っている。
- ・ 各学校では家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図る取組は行っているが、保護者に対する家庭学習を促すような働きかけが多少弱いところがあった。

4 学校生活等

(1) 学校に行くのは楽しいと思いますか<児童生徒質問紙>

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



【小学校】

- ・学校に行くのは楽しいと思うと肯定的に回答した児童の割合は25年度と比べ相当高くなっている。

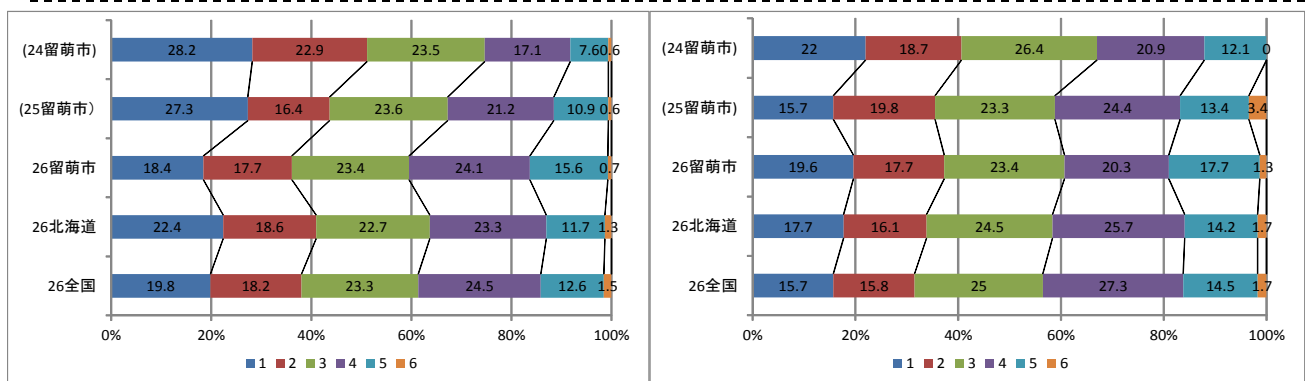
【中学校】

- ・学校に行くのは楽しいと思うと肯定的に回答した生徒の割合は全国、25年度と比べ相当低くなっている。

5 基本的な生活習慣

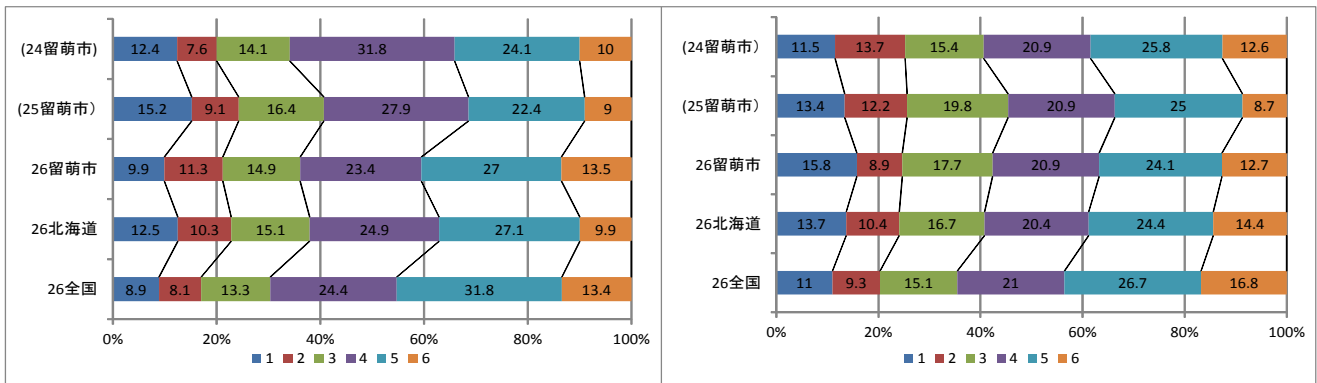
(1) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームをする時間は除く)<児童生徒質問紙>

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上 5 1時間より少ない 6 全く見たり、聞いたりしない



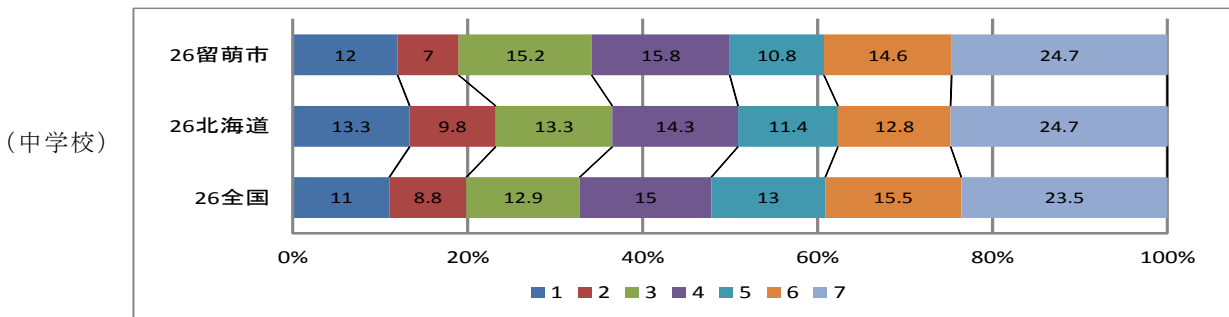
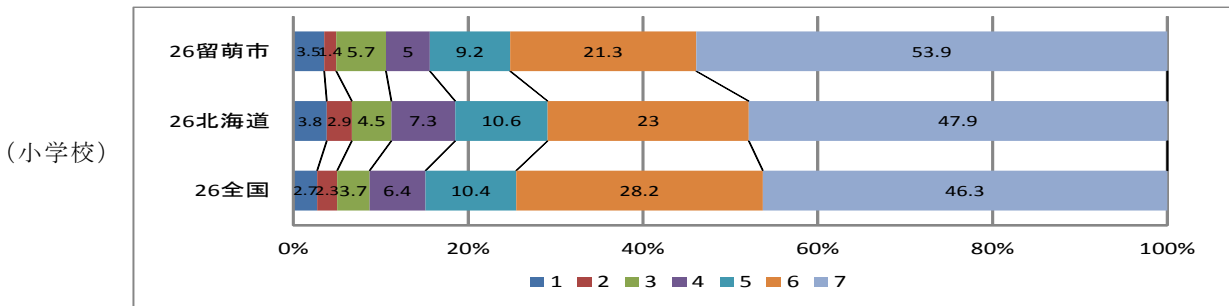
(2) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか<児童生徒質問紙>

選択肢は(1)とほぼ同様、ただし、6のみ変更(6 全くしない)



(3) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)(新規) <児童生徒質問紙>

- 1 4時間以上 2 3時間以上, 4時間より少ない 3 2時間以上, 3時間より少ない
 4 1時間以上, 2時間より少ない 5 30分以上, 1時間より少ない
 6 30分より少ない 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない



【小学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする児童の割合は25年度と比べ相当低く, 減少傾向がうかがえる。一方, 同じく3時間以上, テレビゲーム(携帯式のゲーム等を含む)をする児童の割合は全国, 25年度と比べやや高くなっている。
- ・ 普段, 1日当たり2時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている児童の割合は全国とほぼ同様になっている。

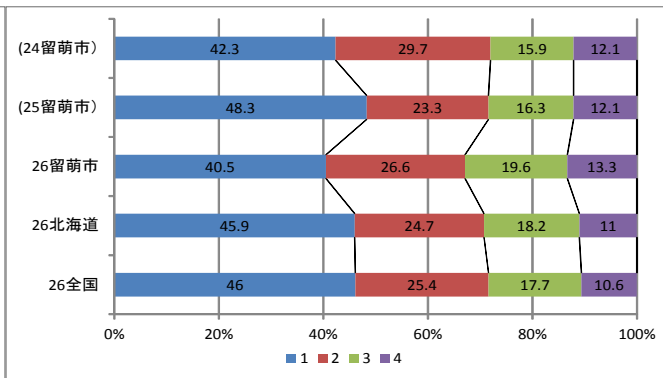
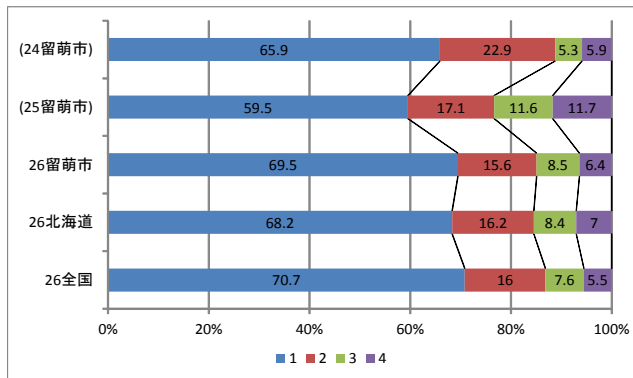
【中学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする生徒の割合は全国と比べ, 高くなっている。また, 同じく3時間以上, テレビゲーム(携帯式のゲーム等を含む)をする生徒の割合も全国と比べやや高くなっている。
- ・ 普段, 1日当たり2時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている生徒の割合は全国とほぼ同様になっている。

6 将来に関する意識

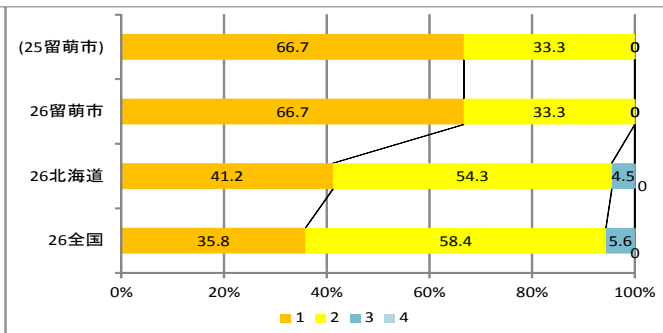
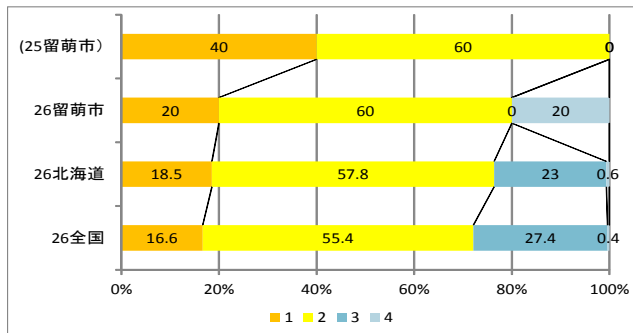
(1) 将来の夢や目標を持っていますか<児童生徒質問紙>

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか<学校質問紙>

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない
4 全く行っていない



【小学校】

- ・将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合は25年度と比べ、相当高くなっている。
- ・前年度、一部の学校では、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導がなされていないが他の学校では取組がなされている。

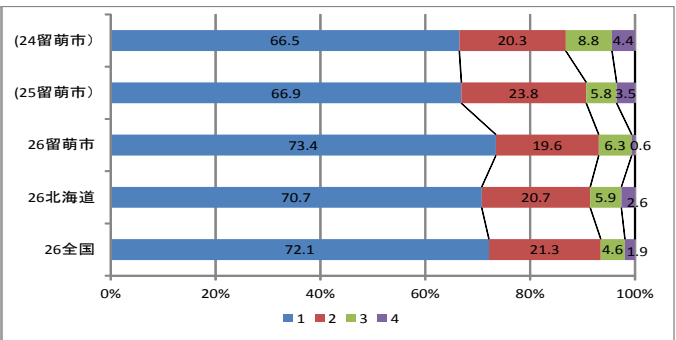
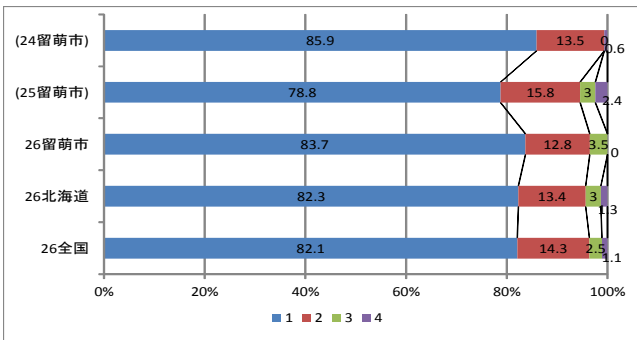
【中学校】

- ・将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合は全国、25年度と比べやや低くなっている。
- ・各学校では将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導の取組がなされている。

7 規範意識

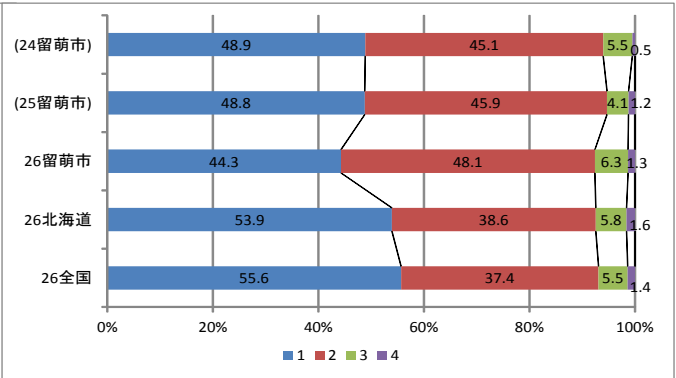
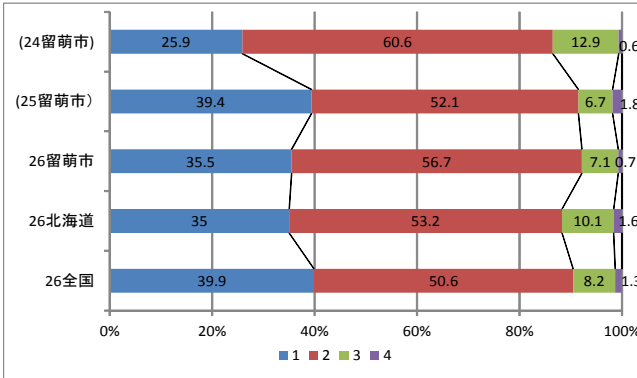
(1) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか<児童生徒質問紙>

選択肢は6の(1)と同様



(2) 学校のきまり、規則を守っていますか<児童生徒質問紙>

選択肢は6の(1)と同様



【小学校】

- ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した児童の割合は25年度と比べ、多少高くなっている。
- ・学校のきまりを守っていると肯定的に回答した児童の割合は全国、25年度と比べやや低くなっている。

【中学校】

- ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した生徒の割合は25年度と比べほぼ同様であったが、「当てはまる」に限ると高くなっている。
- ・学校のきまりを守っていると肯定的に回答した生徒の割合は全国と比べほぼ同様であったが、「当てはまる」に限ると相当低くなっている。

8 自尊意識

(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢は6の(1)と同様

